

厚生労働省は二十六日、全国のひとり親世帯を対象とした二〇二一年度の実態調査の結果（推計値）を公表した。二〇年の平均年収は、父子世帯が五年前の調査に比べて九十八万円増の五百十八万円だったのに対し、母子世帯は二十九万円増の二百七十二万円にとどまった。いずれも増加したが、母子世帯の方が収入、増加額ともに低く、厳しい経済状況が明らかになっ

## 母子世帯の年収 なお低く272万円

5年前比29万円増、父子は518万円

た。厚生労働省によると、女性の場  
合、男性と比べてひとり親に  
なってから就業しているケー  
スが多く、収入の差につなが  
っている可能性がある。同居  
親族を含む世帯全員の収入で  
も、母子世帯は三百七十三万  
円（前回は三百四十八万  
円）、父子世帯は六百六万円  
（同五百七十三万円）で、大  
きく開きがあった。

一方、雇用形態は正規職員

が母子世帯で48・8%（同44  
・2%）、父子世帯で69・9  
%（同68・2%）で、いずれ  
も微増。離婚した相手から養  
育費を受給している世帯の割  
合も上昇した。

調査は五年に一回で、昨年  
十一月に実施。祖父母などの  
養育者が子どもを育ててい  
る世帯を含めて計五千五百五  
十七世帯を対象とし、三千  
六百十二世帯から回答を得  
た。